

データを活用する方法

AIを活用したビジネスプランニングと
インテリジェンスのために



目次

04 はじめに

05 フェーズ1：データの増強

5. データの準備
6. データの統合
06. データを充実させる

07 フェーズ2：AIインサイトへのアクセス

07. 隠れたパターンを発見する
07. AIを活用したレコメンデーションを見直す
08. 専門家と結果を検証する

09 フェーズ3：知識ベースのプランニング で情報に基づいた意思決定を行う

09. ニーズに合わせた分析
10. 時間をかけてAIを鍛える

11 フェーズ4：データの安全性を保つ

- 11 AIポリシーの策定
- 11 従業員の教育

12 AIで社内データを活用する 6つのユースケース

- 12. 小売業拡大分析
- 12. 商品開発動向予測
- 13. サプライチェーンの最適化
- 13. 医療資源管理
- 13. 経済効果分析
- 14. 金融サービスにおける不正検知

15 強力なデータ基盤で始める

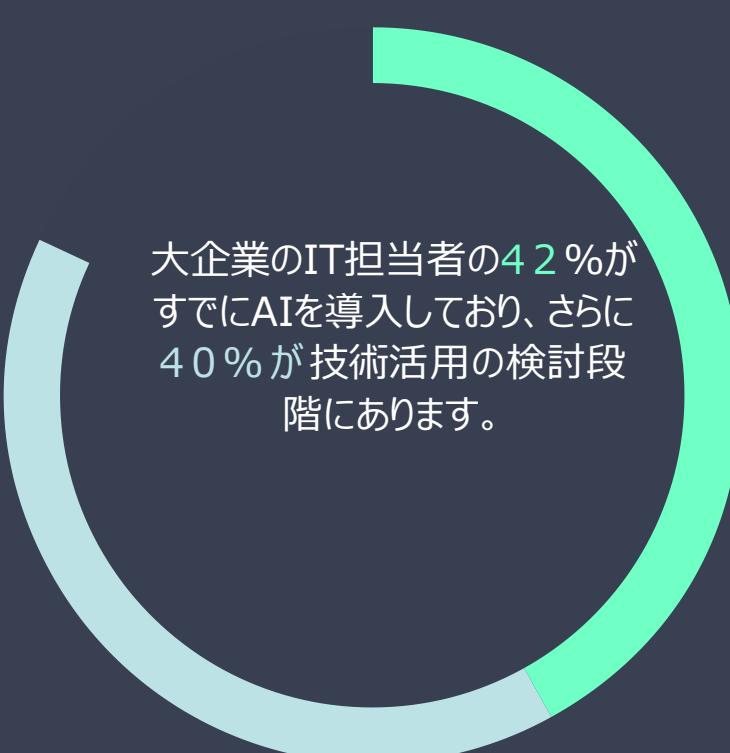
16 Acterysについて

はじめに

AIは、あらゆる業界のチームが効率を改善し、より深い洞察にアクセスし、将来のトレンドを予測し、かつてない精度で変化を予測するのに役立っています。データはAI導入の成功の基盤であり、企業がAIの力を十分に活用する前に、データを効率的に収集、保存、分析できる強力なデータ・インフラが必要です。

大企業のITプロフェッショナルの42%がすでにAIを導入しており、さらに40%が技術活用の検討段階にあります。この傾向をリードしているのは金融サービス部門で、IT担当者の約半数がAIソリューションの利用を報告しています。さらに企業がAIを活用してプロセスを合理化するためには、AIイニシアチブをサポートする堅牢なデータプラクティスを開発することがこれまで以上に重要になります。

データの保護と完全性の管理から、戦略的洞察のための高度なAIツールの活用まで、AIアプリケーションのためにデータを準備、増強、効果的に使用するための実践的な手順と戦略を探ります。AIを検討し始めたばかりでも、既存の機能を最適化したいと考えている場合でも、AIを活用したビジネス・プランニングとインテリジェンスのためにデータを安全に活用する方法を学ぶことができます。



大企業のIT担当者の42%がすでにAIを導入しており、さらに40%が技術活用の検討段階にあります。

1

2

3

4

5

第1段階： データを補強する

AIをビジネスインテリジェンスに活用するための第一歩は、データの品質と構造を強化し、AI主導の分析を効果的にサポートできるようにすることです。以下は、そのための最初のアクションです。生データを戦略的資産に変換し、より深い分析とAIを活用したビジネスプランニングを可能にします。

データの準備

組織全体のデータを標準化することは、AIを効果的に活用するための最初の重要なステップです。AIシステムは、意味のあるビジネスインサイトを生成するために、高品質で一貫性のあるデータに依存しています。そのため、特にデータが多様なソースから発信される環境では、強固なデータ基盤を確立することが極めて重要です。

「私たちの情報は、数多くのシステムに分散しています。このデータを単一の信頼できる情報源に統合することが不可欠です」と、Acterys の最高執行責任者である Mike Zack 氏は説明します。単一の信頼できる情報源に統合する上で、そのデータを正規化することも必要です。

データの正規化とは、分散したデータストリームを統一された形式に整列させ、シームレスに統合・分析できるようにすることです。これは、複数の地域で異なるシステムを使用している組織にとって特に重要です。例えば、北米ではMicrosoft ERPを使用し、欧州ではSAPを使用している企業があるとします。これらのシステムには違いがありますが、地域をまたいだ正確な分析を行うには、両方のデータを標準化する必要があります。

この準備は単なるフォーマット調整ではありません。データの命名、構造、保存方法における不整合をマッピングし、それらの不整合を修正するための変換を適用する必要があります。目標は、現在の分析ニーズをサポートするだけでなく、将来のビジネスプランニング要件にも拡張性と適応性を備えた、統合されたデータセットを作成することです。

私たちは多くのシステムに情報を分散させています。このデータを単一の真実のソースに統合することが不可欠なのです。

マイク・ザック
Acterys最高執行責任者

1

データの統合

データが準備できたら、次の重要なステップは統合です。Acterysのようなツールを使用して、さまざまなシステムのデータを単一の真実のソースに一元化することで、組織は情報資産の可能性を最大限に活用することができます。

2

3

4

5

この統合は、冗長性を削減するだけでなく、データの一貫性を向上させます。例えば、AIを活用したマッチングアルゴリズムは、CRMシステムからの顧客情報とERPシステムからの取引データなど、多様なデータベースにわたる関連するデータポイントを特定し、リンクさせることができます。この包括的な視点は、包括的な分析に不可欠であり、より広いコンテキストを提供することで、より適切な意思決定を可能にします。

データを充実させる

データの充実とは、情報を更新し、欠落している部分を補完することで、正確性と関連性を向上させるプロセスです。AIは、外部ソースからのデータ更新と検証において重要な役割を果たします。例えば、CRMシステムにとって重要なベンダーの住所や連絡先情報の変更は、GoogleやLinkedInなどの信頼できるソースからデータを取得するAIツールを使用して、自動的に更新できます。

この継続的なデータエンリッチメントプロセスは、情報を常に最新かつ活用可能な状態に保ちます。これにより、業務効率を維持し、古いデータから生じる可能性のあるエラーを防止できます。

AIは、異常なパターンや異常値など、エラーや悪意のある活動を示す可能性のあるデータの不一致を特定し、修正するのを支援します。AIモデルは、各インタラクションから学習し、精度を継続的に向上させ、情報に基づいた意思決定を行う能力を強化します。



1

2

3

4

5

第2段階： AIインサイトにアクセスする

データが構造化され、精緻化されると、次にAIを活用した洞察の潜在的な価値を解き放ち、意思決定プロセスを変革するステップに進みます。

隠れたパターンを発見する

「企業はプロジェクトに取り組む前に、AIに関する知識のレベルを明確に決めることが非常に重要です。」と、グローバル・トレジャリー・パートナーズ・リミテッドのマネージング・ディレクター、ヘンリー・ウォン氏は説明します。「AIの目標の40%は、適切な目標を設定する方法を知ることにあると考えています。」

何から始めたらいいかわからない場合は、まずは小規模なプロジェクトで試してみて、その結果を従来のプロセスで予想される結果と比較することから始めてみてください。AIツールを分析フレームワークに組み込むことで、データ内の異常なパターンや異常を自動的に検出することができます。この機能により、金融取引の変動、消費者の行動の変化、業務プロセスの不規則性など、さまざまなデータストリームにおける微妙かつ重要な変化を特定することができます。

AIを活用したレコメンデーション

AIの予測機能を活用して市場動向、消費者行動の変化、潜在的な物流上の課題を予測することで、組織は事後対応ではなく積極的な行動を起こすことができます。例えば小売業では、AIは需要のピーク時を予測し、在庫レベルを最適化して売上を最大化し、無駄を最小限に抑えるのに役立ちます。金融業界では、これらのモデルがキャッシュフローの傾向を予測し、リソースをいつ、どこに配分すべきかに関するよりスマートな意思決定を支援します。

AIを活用したツールを使えば、自然言語でデータと対話し、今年の収益と昨年の収益を比較するといった直接的な質問をすることで、即座に分かりやすい回答を得ることができます。この対話により、レポート作成プロセスが効率化され、複雑なデータ集計にかかる時間が短縮されます。これにより、ビジネス上の課題を積極的に管理し、これまで見落としていた可能性のある機会を捉えることが可能になります。

AIのゴールの40%は、正しいゴールの設定方法を知ることだ。

ヘンリー・ウォン、
マネージング・ディレクター、
グローバル・トレジャリー・パートナーズ株式会社

1

リーダーにとって、これらのAI主導のインサイトを定期的な戦略レビューと計画サイクルに組み込むことは非常に重要です。

2

そうすることで、企業は新たなトレンドに対応するだけでなく、将来のシナリオを戦略的に予測し、準備することができます。

3

異常検知アルゴリズムは、継続的なデータ収集に基づいて、正常とみなされる基準を確立し、継続的に改善していきます。この理解の進化により、AIは時間の経過とともにより正確に異常を特定できるようになります。

4

例えば、収益の予期せぬ減少や取引量の急増があった場合、AIはこれらの異常をフラグ付けできます。関係者は、データをさらに深く掘り下げてこれらの発見を検証し、その影響や関連性を判断することができます。初期のAI導入で成功を収めたら、他のアプリケーションにも拡張できます。

5

専門家による結果の検証

AIの結果をドメインエキスパートと共に検証することは、結果の正確性と適用性を保証する上で不可欠です。特に業界特有のトレンドや未記録の異常といった微妙な点については、エキスパートがAIでは提供できない精査の層を追加で提供してくれます。彼らの深いドメイン知識を活用し、使用されるデータセットが完全であるだけでなく、正しく解釈されていることを検証しましょう。

バランスの取れた意思決定プロセスには、AI実務家とエキスパートの定期的なコラボレーションが不可欠です。AI主導の定量分析とエキスパートによる定性的な評価を融合することで、戦略的の意思決定が堅牢で、十分な情報に基づき、特定のビジネスコンテキストに適合したものになることが保証されます。

ナレッジベースプランニングとは、Acterys などのツールをカスタマイズして、ドメインの専門知識をビジネスプランニングツールに直接組み込むアプローチです。

この方法は、従来のデータ分析に留まらず、エキスパートがシステムに重要な要素とそうでない要素を教えることで、AIの能動的な行動を形作ることを可能にします。例えば、FP&A（財務計画と分析）のような金融アプリケーションでは、エキスパートがAIに銀行取引の分類をガイドし、請求額と入金額の不一致を特定することで、さらには一般的なAIでは見逃してしまうような不規則性の検出まで行うことができます。



1

2

3

4

5

第3段階： 知識ベースのプランニングで情 報に基づいた意思決定を行う

データが完全に補強され、AIによる洞察が指先で得られるようになった今、次の重要なステップは、情報に基づいた戦略的な意思決定を行うためにこれらの洞察を適用することです。この段階では、AIのパワーと専門知識を持つエキスパートを組み合わせることに焦点を当てます。

ニーズに合わせた分析の最適化

多くのレガシーAIツールの課題は、意思決定プロセスに大きな価値をもたらさない「明白な」洞察を生み出す傾向があることです。

例えば、収益の増加が純利益の増加につながることは一般的に常識であり、戦略的プランニングにはほとんど役立ちません。

これを克服するには、AIを搭載したツールをカスタマイズして、より微妙で業務に関連したインサイトを生成できるようにします。このカスタマイズでは、ドメインの専門知識とユーザーの好みをAIの学習プロセスに直接統合することで、システムが特定のビジネスコンテキストにおいて真に有益なインサイトを理解し、優先順位付けすることを可能とします。

ドメイン固有の知識に焦点を当てることで、AIシステムは意思決定者にとってより意味のある、目立たないパターンを識別し強調するように訓練できます。例えば、AIツールは、新製品の発売や市場の変化に対する顧客の行動変化を予測する取引パターンの分析を行うようにプログラムできます。

この原則を忘れてはな
らない。

「ゴミを入れたらゴミが
出る」という原則は、内
部データだけでなく、
外部データにも当ては
まる。

マイク・ザック
Acterys最高執行責任者

1

時間をかけてAIを鍛える

継続的なトレーニングに一貫して取り組むことで、AIシステムの効率を維持・向上させます。このトレーニングは、データをアルゴリズムに送り込むだけでなく、モデルと対話し、その出力に関するフィードバックを提供し、ビジネスのニーズをよりよく満たすためにそのプロセスを改良します。

2

3

4

5

「質の高いデータを手に入れ、その質の高いデータでモデルやAIエンジンをトレーニングするところまで到達したいものです」とマイクは述べています。「『ゴミを入れたらゴミが出る』という原則は、社内のデータだけでなく、社外のデータソースにも適用されるということを覚えておくことが重要です」とマイク氏は述べています。高品質のデータとカスタマイズされた応答を用いてAIモデルのトレーニングに多くの時間を費やすほど、そのパフォーマンスは向上します。このフィードバックと調整の継続的なサイクルが、AIがデータを理解するだけでなく、そのデータが使用されるビジネスのコンテキストも理解するのに役立ちます。

このようにAIモデルと連携することで、AIモデルはビジネスに合わせて進化するダイナミックなツールへと進化します。AIはユーザーからの修正や入力から学習するにつれて、ユーザーの期待にさらに沿うようになり、真に重要な異常や傾向をより的確に発見できるようになります。例えば、財務照合プロセスにおいて、AIはどの取引の不一致が最もエラーである可能性が高いか、どの取引が典型的な変動であるかを認識できるようになるため、より効率的で正確な照合プロセスが可能になります。



1

2

3

4

5

第4段階： データを安全に保つ

データ・セキュリティの維持は、継続的かつ発展的なプロセスです。社内外の脅威から機密情報を守るためには、強力なデータガバナンスとセキュリティポリシーが必要です。データを保護するセキュアなフレームワーク構築の要点をご覧ください、ステークホルダーの信頼を維持し、進化する法的基準を遵守する。

AIポリシーの策定

包括的なAIポリシーを策定し、AIテクノロジーに対する組織の枠組みを設定しましょう。AIポリシーは、明確なガイドラインと期待を確立することで、リスクを最小限に抑えながら利益を最大化し、組織においてAIテクノロジーが責任を持って効果的に使用されることを保証するのに役立ちます。

ポリシーでは、AI活用の目的、倫理的配慮、コンプライアンス要件、関係者全員の責任について概説する必要があります。また、データガバナンス、プライバシー基準、AIの導入と保守の方法論についても言及する必要がある。また、新たな技術の進歩や規制環境の変化に対応するため、ポリシーを定期的に見直し、更新することも重要です。

従業員の教育

トレーニングでは、AIツールがどのように機能するかだけでなく、これらのツールを日常のワークフローにどのように組み込むことができるかをカバーする必要があります。

従業員は、業務を強化するAIの可能性、技術の限界、データ・セキュリティ維持の重要性を理解する必要があります。教育プログラムには、従業員がAIシステムに慣れ親しむことができるよう、実践的な例やハンズオントレーニングを含める必要があります。

AIに関する継続的な学習と好奇心を持つ文化を育成することで、従業員が改善やイノベーションを提案できるようになり、AIソリューションの確実な導入につながり、ビジネスのニーズと目標に合わせて進化し続けることを支援します。この教育的イニシアチブは、AIテクノロジーとビジネス・オペレーションのギャップを埋めることができ、よりスムーズな移行と効果的な導入を実現します。

1

2

3

4

5

AIで社内データを活用する6つのユースケース

AIと機械学習によって社内データの可能性を引き出すことは、ビジネス分野全体に変革の機会をもたらします。AIとデータを組み合わせることで、ビジネスプランニングとインテリジェンスを強化できる6つの例をご覧ください。

小売業拡大分析

AIを活用して内部データと外部データを分析し、小売業の拡大に適した最適な立地を特定できます。例えば、大手コンビニエンスストアチェーンは、既存店舗のデータと潜在的な立地に関する情報をAIで照合し、繁華街の交差点への近さや他の成功した小売店の存在など、複数の要因を考慮しました。この統合分析により、利益率の高い立地を特定し、立地選定プロセスを大幅に効率化しました。。

商品開発トレンド予測

AIは、現在のトレンドと新興トレンドを分析することで、製品開発における今後のトレンドを予測するのに役立ちます。例えば、大手塗料メーカーはAIを活用し、外部での色トレンドに関する議論と、自社内の生産データや販売データを統合しました。これにより、同社の生産チームは次期生産サイクルで最も人気のある色を予測し、在庫が予想需要を満たすように調整しつつ、過剰在庫を回避することができました。

1

サプライチェーンの最適化

AIを活用して、輸送状況のリアルタイムデータと過去の実績を分析することで、サプライチェーンの物流を最適化できます。ある配達業者は、天候パターンや海流などの要因を考慮して、最も効率的な輸送ルートとスケジュールを決定するためにAIを活用しました。このアプローチは、輸送コストを削減するだけでなく、配達時間を改善し、条件の変化に柔軟に対応しました。

4

世界的な包装会社であるアムコル（Amcor）は、AIを活用してサプライチェーンの需要予測プロセスを最適化しています。3年間の過去データを用いてAIモデルを訓練することで、顧客の需要の変動や供給側の要因を正確に予測できます。これにより、原材料の需要を適切に予測し、調達に関する意思決定を適切に行うことが可能になりました。その結果、アムコルは在庫保有コストを10%削減し、納期遵守率を5%向上させることに成功しました。

5

ヘルスケアリソースマネジメント

AIを活用することで、予測データ分析に基づいてスタッフのスケジュール管理とリソース配分を最適化し、医療管理の効率化を実現できます。病院では、患者の入院パターンとスタッフの可用性を分析するためにAIを活用し、リソースをより効果的に管理し、待ち時間の短縮と過重労働の防止により、患者とスタッフの満足度を向上させています。

経済効果分析

AIは、過去の経済データと内部の財務分析を統合することで、インフレなどの経済変化を理解し、備えるのに役立ちます。このアプローチは、企業が将来の状況を予測し、戦略を適切に調整するのに役立ちます。例えば、数十年にわたるインフレ傾向を分析し、現在のデータと比較することで、企業は潜在的な経済不況から身を守るための適切な判断を下すことができます。



1

金融サービスにおける不正検知

AIは、取引パターンを分析し、異常を特定することで、銀行や保険などの業界における不正検知の取り組みを大幅に強化できます。これにより、企業は不正行為の可能性のある活動をより早期に、より正確に検知できるようになります。例えば、顧客が通常とは異なる場所で高額な購入を行うなど、通常とは異なる取引パターンが見られた場合、AIシステムは企業に警告を発し、取引のさらなる調査を促します。

4

米国財務省は、AIが不正検知にどのように効果的に活用されているかを示す実例を示しています。2023年初頭にAI不正検知プロセスを導入して以来、財務省は3億7,500万ユーロ（約638億円）以上の回収を実現しました。このプロセスは、パンデミック以降、全国で385%増加した小切手詐欺の大幅な増加に対応するために導入されました。財務省の支払保全局（OPI）は、AIを活用することで、小切手詐欺をほぼリアルタイムで軽減し、金融機関からの不正の可能性がある支払いの回収を強化・迅速化することに成功しました。

5

このプロセスは、パンデミック以降、米国で385%増加した小切手詐欺の大幅な増加に対応して実施され、大きな成果を得ました。

強力なデータ基盤で始める

AIを活用したビジネスプランニングとインテリジェンスを成功に導くには、まずデータ管理の基礎を固めることから始まります。データを適切に扱い、準備し、統合し、充実させることは、複雑なAI分析に備える上で極めて重要です。

Acterysは、このプロセスを合理化し、プロアクティブなビジネス上の意思決定に不可欠なAI主導の洞察にすばやくアクセスできるようにします。Power BIやExcelなどの主要ツールとのシームレスな統合により、データは引き続き重視されます。

AIを活用したインサイトとライトバック機能により、プランニング・プロセスを加速させながら、戦略的的意思決定を行うことができます。

Acterysを使用すれば、データの自動同期と異常検知により、将来の傾向を簡単に予測し、過去のデータに基づいて矛盾を突き止めることができます。予測分析を活用し、新たなデータパターンに基づいて財務予測と業務計画を自動的に調整します。

Acterysがお客様のビジネスインテリジェンス業務をどのように変革し、データに裏打ちされた情報に基づく意思決定をより効率的かつ効果的に行うためのAI搭載ツールを提供できるか、お確かめいただけますか？無料トライアルにお申し込みいただき、AIを活用したリアルタイムのビジネスインテリジェンスがもたらす違いを実感してください。

Acterys Copilot for FP&A

当社の総合的なテクノロジーが、お客様の計画、予算編成、予測プロジェクトをどのように自動化し、加速させるかをご覧ください。

Acterys Copilot

Acterysについて

Acterysは、主要なERPおよびSaaSソリューションに対応したエンドツーエンドの分析・計画ソリューションを通じて、現在と将来の状況を瞬時に明確に把握することを可能にします。

このソリューションは、単一の真実に基づくデータモデルに加え、あらゆるパフォーマンス管理の側面に対応したすぐに使えるテンプレートを提供しており、ビジネスユーザーはPower BIやExcelなどの使い慣れた環境で簡単にカスタマイズできます。

これにより、データ分析、統合、計画といった複数の異なるCPMソリューションをMicrosoftの標準テクノロジーに基づく単一のプラットフォームに統合できるため、大幅なコスト削減が保証されます。



Acterys パートナー

RAD 日本ラッド株式会社



<https://www.nippon-rad.co.jp/bi/products/acterys/>



Tel : 03-5574-7800

DXコンサルティング部 担当 : 穂盛



Mail : Acterys@nippon-rad.co.jp